

126

126

No 126

3013
3014

第十七軍高級参謀
元陸軍大佐

小沼治夫手記抜萃

(状況報告、上奏案)

防衛研究所戦史室



MHS LIBRARY

Extracts
Personal Notes
Ex. Col. KONUMA, Haruo
Senior Staff Officer
Seventeenth Army

126

126
No 126

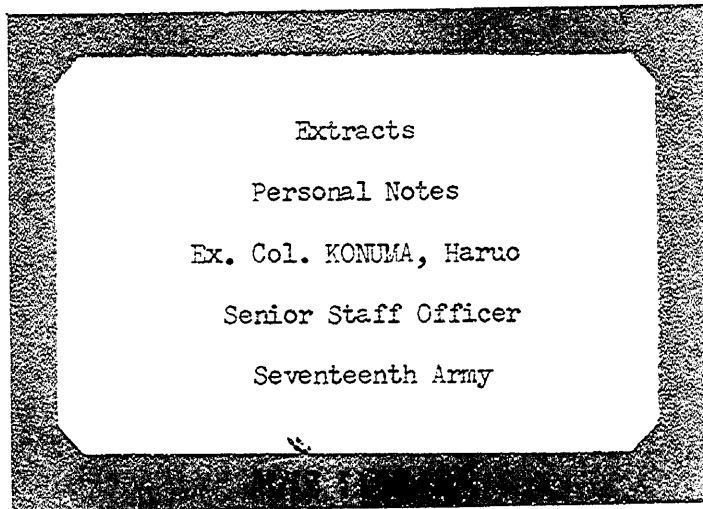
3013
3014

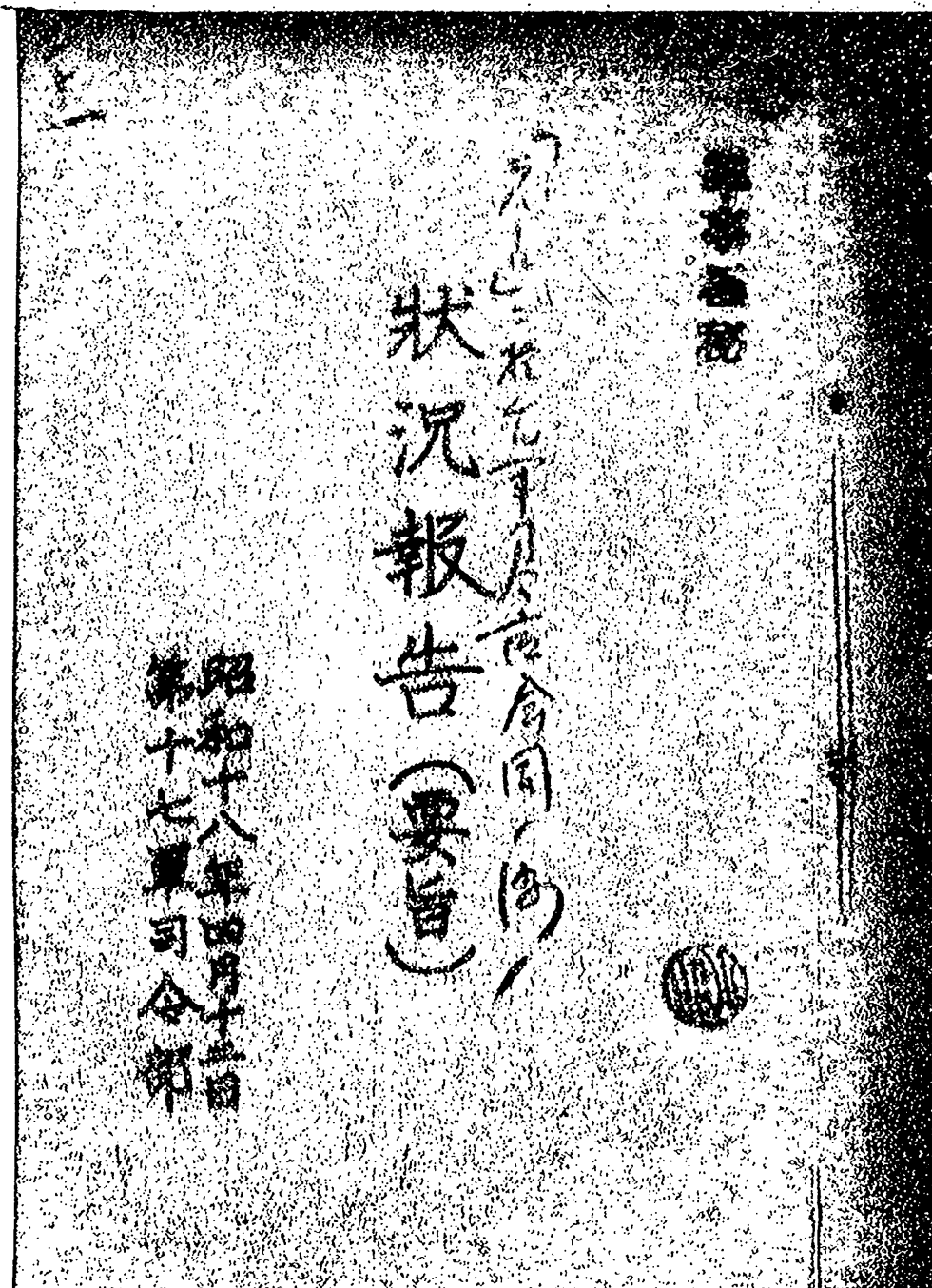
第十七軍高級参謀
元陸軍大佐

小沼治夫手記抜萃

(状況報告、上奏案)

防衛研究所戦史室





3015

目次

第一 敵情

第二 〆親作戦参加部隊戦力恢復及轉進

第三 作戦警備

第四 第六師團ノ戦力

第五 軍需品ノ集積

第六 食糧自給対策

30/6

第七 「マラリヤ」対策

第八 海軍との関係

附圖第一 「ソロモン」群島方面敵艦隊状況一覽表

附圖第二 「ボゲンビル」島入院患者病類別一覽表

附圖第三 「ボゲンビル」島附近警備概要圖

附圖第四 「ボゲンビル」島軍需品集積一覽表

第一 敵情（附圖第一参照）

「ソロモン」群島方面最近ニ於ケル敵飛行機ノ活動状況ヲ觀察スルニ三月初旬及中旬於テ最も熾烈ヲ極メ「ケ」號作戰當時ニ於ケルガタルカナル島ノ敵兵力並ニ其ノ後ニ於ケル敵輸送船ノ活動ト併セ考察スレバ當時敵ガ地上部隊ノ交代ヲ行ヒ之ヲ掩護シアリシモノト判斷セラル

2017

三月初旬、ガダルカナル島に於ける敵機ハ二百
餘機ヲ算センガ其ノ活動ニ伴フ損失モ相當ニ大
ナリシモノ如ク三月二十日週ギハ百五十機程度
トナリ次々之ヲ増強スル爲ニ四艘宛ノ航空母艦
ヲ以テ數回補充交代ヲ行ヘリ 爲ニ其ノ後ニ於
ケル輸送船ノ活動ハ稍々下火トナリシニ拘ハラズガ
タルカナル島ノ飛行機ハ俄然三百機ニ増加シ盛

ニムシガ「コロバンガラ」「レガタ」「エレベント」
方面ニ對シ偵察行動ヲ行フニ至レリ

本月に入りテ後ハ其ノ頭初ヨリ行ハレシ我が航空進攻
作戰ノ關係モアリテ敵機ノ活動消極化セルガ如キモ
「タルカナル」島ニ於ケル依然タル飛行場ノ擴張、
「オントンシマバ」島「バンカ」島ヘノ飛行場推進及三
十餘艘ノ敵艦艇活動ノ再興等ノ状況ニ鑑ミ敵ノ進

攻陣備益、促進セラレツアルヲ覺悟シ其ノ對策
ヲ真劍ニ準備セザルベカラザル狀況ニ在リト思考
ス

第二「ゲ」號作戰參加部隊ノ戦力

恢復及轉進（附圖第二冬照）

「ゲ」號作戰ニ於テ「ボーゲンビル」島ニ上陸セル陸軍
部隊ハ約九千八百名ニシテ當時「ボーゲンビル」島ニ

在リシ各、自隊ノ補充員ヲ合シ約一萬五千名（6Dヲ
含マズ）アリシガ其ノ後、御指導ニ基キ一意戦力恢
復及諸整理ヲ行ツテ著々其ノ成果ヲ收メ今々所命
ノ如ク其ノ大部ヲ「ラバウル」ニ轉進セシメ得タリ其ノ
人員ハ總計約一萬一千四百名ニ上リ外ニ患者約千六百
名ヲ「マニラ」及「ラバウル」ニ後送セリ入院患者ノ首
位ヲ占ムルモノハ「マニラ」ニ（約三分一）ニシテ戦争遺

5
MHS LIBRARY

8019

養失調(約七分)之ミ次グ

「ラバウル」及内地方面へ轉進部隊中今尚「ホーゲン
ビル」島ニ在ルハ一木支隊ノ外エ兵第五聯隊、船舶
エ兵第一聯隊、野戦高射砲第六大隊、第三野戦
輸送司令部ノ各一部合計約八百八十名ニシテ外ニ
「ムンダ」「フロンバングラ」地區へ前進部隊ノ一部及
入院患者(千五百名)殘置セラレアリ

而シテ「エレベント」地區ニ於ケル病院施設ト野菜
等患者用食糧品ノ不足トハ迅速ニ患者ヲ後送ス
ルノ必要ヲ痛感ス

第三 作戰警備(附圖第三参照)

軍ハ「ケ」號作戰參加部隊主力ヲ轉進ニ伴ヒ作戰
準備ヲ促進スル爲四月四日部署ノ一部ヲ變更シ
「エレベント」地區ニ於ケル防空隊ヲ軍直轄トセリ

8020

目下「エレベント」地區ニ在ル防空隊ハ陸海軍ヲ合
シ高射砲五十五門、機關砲^{ハナハ}五門、照空燈
十九基ヲ有シ最近晝夜夫若干ノ擊墜成果ヲ
收メタルモ其ノ訓練ハ未ダ十分ナラズ 又射撃特ニ
觀測用具整ハザルミナラズ陸海軍間統一ヲ缺キ
アルニ鑑ミ近ク陸海軍防空火器ノ配置、情報ノ蒐
集並ニ傳達、戰闘法等防空要領ヲ根本的ニ改訂

2021

シ訓練ノ向上ト相俟ツテ敵攻勢意志擊摧ノ實ヲ舉
ゲシトヲ期シ海軍ト折衝中ナリ

軍ハ現下當面ノ狀況上情報蒐集ヲ重視シアリ
而シテ「ボーゲンビル」島内ハ第六師團ニ一任シ所要ニ
應ジ之ヲ援助スルニ止メ軍ハ「ソロモン」群島方面一
般ノ情報蒐集ニ勉メルモ目下軍自體ノ情報蒐
集機關ヲ有セズ又「ニュージョージヤ」島「イサベラ」島

等前方ニ在ル諸部隊ト通信組織整ハザルヲ以テ自
主的ニ所望ノ情報ヲ蒐集スル能ハズ唯現地海軍
諸部隊ニ連絡將校ヲ派遣シ之ヨリ受クル情報ト
方面軍ヨリ電報セラルル情報トノミニ依存シアル實
狀ナルヲ遺憾トス

第六師團警備配置ハ「ブカ」東南方地區ニ於ケ
ル地形ノ價值ニ鑑ミ近ノ之ニ步兵部隊ヲ配置スル

豫定ニシテ尚道路構築ノ進捗ニ伴ヒ「タイタイ」方
面ニ步兵一大隊ヲ派遣シ「ブイン」「ガゼレ」間ニ於ケ
ル海岸ノ要點ニ監視哨ヲ配置スル如ク準備ヲ進
メツツアリ

「ブイン」ヨリ「ギエタ」及「ガゼレ」ニ至ル作戰道路ノ構
築ニ關シテハ銳意努力シツツアルモ地形ノ險難ト作
業力不足トハ七月末迄ニ辛ウシテ自動車道ヲ構

築シ得ルニ過ギザル實狀ニ在リ

飛行場ノ新設亦作業力ノ關係上單ナル腹案
ニ止マリ未ダ著手スルノ運ビニ至ラス

第四 第六師團ノ戦力

第六師團ハ其ノ素質及師團長ノ統率指導共
ニ良好ナル爲精強師團ノ實ヲ發揮シアルモ總人
員一萬七千六百名中目下作戰道路ノ構築ニ約

八千名海軍ノ飛行場整備援助ニ約七百名農
場ノ開發ニ約百名ヲ使用シ(指揮機關補給衛生
機關等)約五千名入院患者ノ約千名其他直接
警備部隊在隊患者ヲ除ク)師團ノ使用シ得ル
全カヲ之ニ充當シアル實狀ナリ

幸目下ニ於テハ一旬平均約二百名新患者(内二
十名ハ入院)ヲ出シアルニ過ギズシテ統計的ニ觀察シ

2023

他兵團ニ比シ劣ラザル衛生成績ヲ舉ゲルモ、マラヤ
ノ發生地域ニ於テ野菜其ノ他ノ生糧品不足ニ甘シ
シシ連續作業ヲ行ヒアルヲ以テ今後ノ衛生状態ニ
關シテハ樂觀ヲ許サズ又直接防禦ノ施設及戰鬪
訓練ヲ行ヒ得ケルヲ以テ兵力増加ノ必要ハ依然痛
感セラルル所ナリ

尚目下ノ作業能力發揮ノ爲ニ土工及木工器具ノ

増加ヲ必要トシ今後ニ於ケル島内ノ交通、補給ヲ考
慮セハ自動車及馬匹ノ増加ヲ必要トス

第五 軍需品ノ集積 (附圖第四参照)

「ボーンビル」島ニ於ケル軍目下ノ給養兵額ハ二萬七
千三百ニシテ外ニ馬匹三百自動車約百九十(自動
貨車約百二十五 乗用車約三十五 其ノ他約三十)
アリ其ノ集積軍需品ハ現下ノ所要ヲ概ネ充足シア

生回下、エビ、シ、地区ハ主食約一月半別食約
二十日分、彈藥ハ平均約〇六會戰分燃料ハ約
一月半分、衛生材料ハ貨物廠出張所ハ約一月
分ハト題ヤズ

初、海岸島嶼作戰ハ特徵ハ敵ハ攻勢ヲ受テ必要
ニ直而シタル後軍需品ヲ輸送セントスルモ能ハザル
所ハ存シ是非事前ニ必要量ヲ其ノ島ニ集積シ

置クヲ要スルヲ以テ現下ノ敵情ハ鑑ミ最モ速カク少
クモ糧秣五ヶ月分、彈藥一會戰分、燃料、衛生材料
及被服各六ヶ月分ヲ、ボーゲンビル島ニ集積スル必
要アリト確信ス

第六 食糧自給對策

軍ハ當面作戰ハ特質上兵員ノ外勉メテ多クノ
土民ノ使用シ農園ノ開發及現地物資ノ蒐集

利用ニシテシテ農園ノ開發ニ關シテ各隊
毎々自給ノ所需ヲ充足シ軍人更ニ別ニ之ヲ經營
シテ増強スルノ主義ニ則リ指導シシヤリ

現況ヲ以テ推移セハ九月頃ヨリ現地ノ收穫ヲ
以テ軍人食料ニ對シテ野菜ノ常葉ヲ充て得ル豫
定ナリ

目下軍人於テ生糧品ノ蒐集班ヲ派遣シ榮養

ノ増加ヲ策シタルモ現地ノ魚肉獸肉ヲ兵ニ給スル爲
ニ冷凍器具ヲ必要トス

第七 「マラリヤ」對策

軍人通殺訓練ノ健兵對策ニ率由シ各隊毎ニ
徹底セル幹部ノ指導監督ヲ勵行セシメ尚防疫
ニ作班ノ派遣等ヲ併セ行ツテ「マラリヤ」豫防ニ
力ヲ以テ戦力増強ヲ策シテ目下著々其成

果ヲ収メシツアリ

第八 海軍トノ關係

軍ハ大衆的見地ニ立テ現地海軍部隊ト密ニ協同
兵力不足ノ中ヨリ「ブイシ」「バラレ」飛行場整備
作業援助ニ千三百名ヲ派遣シ第二第三十八師團
等ノ轉進後モ續イテ本月末迄約七百名ヲ差遣
シ所望ノ掩體構築ヲ完成スル豫定ナリ

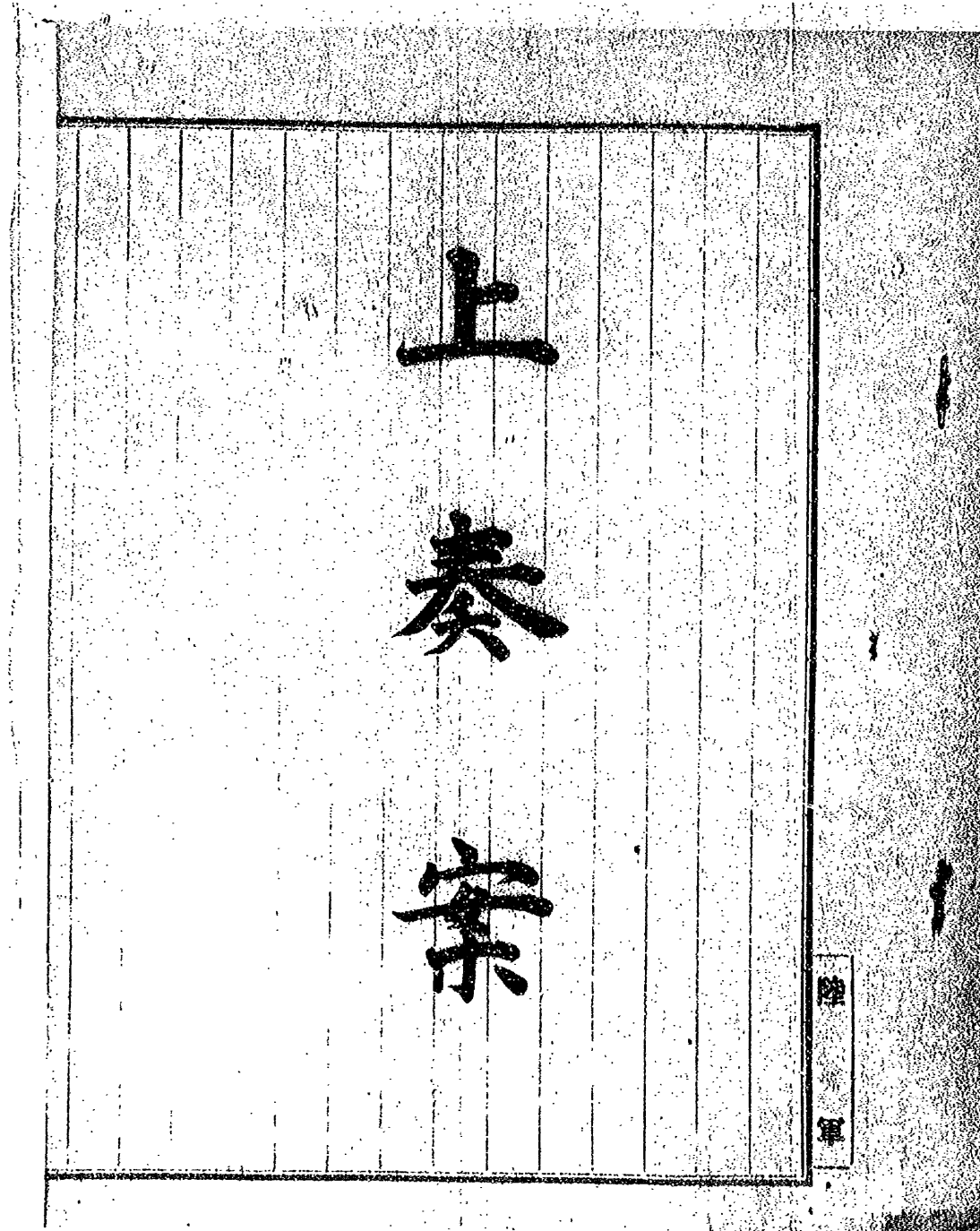
又「ムンダ」「コロンバングラ」及「レガタ」方面ノ陸軍
部隊ニ對シテモ時々連絡者ヲ通シ不足軍需品ノ
一部ヲ補給シシツアルモ在「ブイシ」第一根據地隊
ハ右ノ補給ニ堪フル艦船ヲ有セズ又第十一及第三
十六航空戰隊ハ孰レモ其ノ戦力ニ敵情上所望
ノ協力ヲ期待シ得ズ遺憾ノ點少カラズ

軍任務達成上陸海空ノ一心同體タルノ必要

3027

ハ輪ヲ俟タル所ナルヲ以テ必要ナル陸海軍協定
ノ確立及有力ナル艦隊參謀ノボーゲンビル軍
司令部派遣等ノ御處置アラシコトヲ懇請ス

3028



3029

上奏案

謹々南東方面、軍狀ニ就テ上奏ス

晴吉

昭和十七年五月大東亞緒戦、赫々タル戦捷、後
ヲ承ケ遠々南大洋上ニ於ケル米國壕洲間ノ
連絡ヲ遮断シ濠洲、孤立化ヲ圖ル爲ニニューカレ
トニア、フィジー、サモア諸島及東部、ニューギニア南岸

3030

要地ヲ占領スヘキ大任ヲ任シテ征途ニ上レリ
ニ途中情勢ノ變轉ニ伴ヒ作戰任務ヲ變更セラ
ルコト數次七月下旬ニ至リポートモレスビー攻略
駐東部ニニューギニア要地ノ戡定ヲ命セラル 是ニ於
テ軍ハ其ノ戰闘司令所ヲラバウルニ進メ海軍ト協
同シ南海支隊ヲ以テ之ヲ實行ノ任ニ當ラシメタリ
斯クテ南海支隊ハ七月下旬ヨリ九月上旬ニ至リ

艦 軍

有カナル敵飛行部隊ノ妨害ヲ排除シツ、ブ
附近ニ上陸シ所在ノ濠洲軍ヲ撃破シツ、補給
ノ困難ニ耐ヘ嶮難ナル山岳地帯ヲ踏破シ九月中
旬其先頭部隊ヲ以テオーエンスタンレイ山脈ノ巔
頂ヲ越エポートモレスビー附近ノ海面ヲ俯瞰シ得ル
ノ地点ニ進出セシカ此頃以來敵機ノ來襲益々
熾烈ヲ加ヘ地形ノ嶮難連日ノ降雨補給ノ難澁

艦 軍

ルノバムナヤニ至リ角後該方面ノ作戰ハ新ニ
戰場ニ進出セル第八方面軍司令官ノ統帥ニ委
據スルコトナレリ
之ヨリ最東部ニユーギニア方面ノ作戰將ニ
シトスル八月七日有ウナル敵兵團ハ艦護衛ノ
下ニ突如南部ソロモンニ反攻シ來リガダルカナル島
ニ施設中ノ我海軍飛行場及ツラギ島ヲ占領シ戦

陸軍

角後ノ作戰ヲ準備セシメタルモ戦局日ヲ經ルニ從ヒ
過迫セシヲ以テ十月下旬遂ニ前線ヲ撤シ敵ノ
前進ヲ遲滯シツ、ブナ方面ニ兵力ヲ集結セシム

3032

茲ニ於チ四月十五日軍ハ連ニソロモシク奪回スノキ
任務ヲ受クルト共ニ依然東部ニユーグニヤ作戦ヲ遂
行ヲ命セラレ且逐次作戦兵力ヲ増強セラレシヲ
以テ爾後其主作戦ヲガダルカナル島ニ集中シ約半
歳ニ亘リ離戦苦闘ヲ重ヌルニ至レリ

ガダルカナル島奪回作戦ハ當初廣大ナル海域ヨリ

進軍シ得タル兵力ヲ以テ逐次ニ行ハレタルモノ

シテ八月中旬ニ於ケル一木支隊及九月中旬ニ於ケル

所口支隊ノ攻撃相次テ成功ヒス十月下旬軍戰

術司令所ヲガダルカナル島ニ進メ新ニ増加セラレタ

ル第二師團主体ノ軍主力ヲ以テ海軍ノ積極果敢

ナル協力ノ下ニ敵陣地ノ左側背ニ向ヒ乾坤一擲ノ

猛攻ヲ敢行セシカ正ニ決勝ノ中途ニ於テ熾烈ナ

敵火力ノ甚ク、我軍ノ損害亦甚シキニ至リ、我軍ニ幾多ノ死傷ナリ、
 兵ヲ喪ヒ、剩ハ敵機ノ跳梁ニ依リ海上輸送ノ難澁
 二件ヲ補給ノ困難愈々増大シ遂ニ萬斛ノ米ヲ各
 レニ攻撃ヲ中止スルノ已ムナキニ至ル
 其ニ痛恨ノ極ミナリ
 次チ十一月下旬第八方面軍及第十八軍司令部ノ
 進出
 戦場ニ件ハ軍ハガダルカナル島ノ作戰ニ準備スル

陸軍

コトナリ爾後ノ作戰ハ全般ノ攻勢作戰準備
 就中航空作戰進捗、間海軍ト協同シテ現
 在線附近ノ要地ヲ占領シテ爾後ノ作戰ヲ準備
 スヘキ方針ニ基キ指導シ新ニ戰場ニ到着セル第
 三十八師團主力ヲ根幹トスル部隊ヲ以テアウマタシ
 及之ニ連接セル高地方面第二師團ヲ以テ海岸
 方面ニ攻勢據点ヲ占領シ、免メテ局部的積極行

2034

動及各種手段ヲ盡シテ敵ニ危懼壓迫ノ念ヲ
與フルト共ニ我軍内部ノ困難ナル實情ヲ秘匿
シツヽ持スラ策シテ攻勢準備ノ時機ノ到ルヲ待
テ翌十八年初頭ニ及ヘリ此ノ間十月末ヨリ再々
五ノ海岸及之ニ連接セル方面ニ敵ノ熾烈ナル攻勢
ヲ受ケタルモ其都度陣地前至近ニ反撃シ之ニ
多大ノ損害ヲ與ヘテ其企圖ヲ挫折セリ

陸軍

然レ共時日ノ経過ニ伴ヒ敵ハ海上及空中戦力
ヲ以テ我軍ノ後方遮斷ヲ強化シ特ニガダルカナル
島ニ於ケル敵飛行場ノ増強ニ伴ヒ敵機ノ活動ハ
晝夜ニ亘リ愈々活潑執拗トナリ其海上及
又威力ハ殆ント絶對的トナレリ幾從テ十及十一月
ニ於ケル兩國ノ大船團輸送ノ成果愈々如クナラヌ
爾後補給輸送ニ關シテハ海軍ノ必死的努力

海軍

及各種特別ノ創意工夫ヲ凝ラサレタルモ彈藥
糧秣ノ補充殆ド杜絶ニ瀕シ日夜激烈ナル砲
爆撃ノ爲損傷累加シ刺ヘ瘡瘍痼魔ノ難亦
甚シク爲ニ戦力ハ日ト共ニ消耗ノ一途^ヲレリ然レ
トモ此間將兵一同前途ノ光明ヲ認メ任務完遂
ノ決意鬱勃トシテ胸臆ニ躍動シ一難加フル
ニ従ヒ志氣愈々旺盛晝夜間斷ナキ砲爆撃ト

12
3036

砲戦創戦絶エサル激戦裡ニ極度ノ困苦饑乏
ニ耐ヘツ、七十餘日ヲ經過シ軍ノ將兵殆ント全部
カ傷病ニ悩メル狀況ニ於テ二百有餘ノ飛行機ヲ
有シ且逐次新鋭ヲ以テ交代セル約三師團ノ米軍
ヲシテ其陣地ニ襲伏スルノ已ムナキニ至ラシメタリ
越エテ一月十日敵ハ長時日ニ亘リ準備セル莫大
ナル物質的戦力ヲ擧ケテ全線攻撃ヲ執リ遂

13

烈ナル砲撃ヲ下シ日軌勦ナル攻撃ヲ反復
タルモ戦果一線諸隊ハ或ハ最後ノ一兵ニ至ル迄
奮戦シ或ハ敵ノ爲四周包圍ヲ受テ補給連絡
断絶セルモ毅然トシテ陣地ヲ死守シ死闘慘烈
極メ於テ克ク皇軍傳統ノ精華ヲ遺憾ナク
發揚セリ

斯クテ一月十五日戦局緊迫ノ極ニ達セシ時

陸軍

畏クモ敵慮ニ基テ勦語ヲ拜受シ且ガタルガタル
島ニ在ル部隊ヲ北部ノロモン群島ノ要地ニ撤
收シ爾後同方面ニ強固ナル戦略態勢ヲ確立
スヘキ方面軍命令ニ接セリ

陸軍

顧ミルニ軍ハガタルカナル島方面ノ主作戰開始
以來四閱月遂ニ大任ノ一端ヲモ達成シ得ス
風夜宸襟ヲ愴シ奉リシコト

15

3037

ルニ長クモ優越至ニナル勅諭ヲ
急事惜ノ處ヲ知ラス而シテ作戰中途ニシテ
撤収ヲ命ジテ自ラ僅少ノ殘存將兵ト
共ニ離島スルハ縦ニ新任勢ヘノ轉換ト云ヘ統
率上ノ苦衷極レリト雖モ大命遵奉ノ一途ニ
徹シ一意新任務ノ達成ニ邁進セリ斯クテ
撤収作戰ハ最モ急迫困難ナル狀況ノ下ニ實

施セルニ拘ラス海軍ノ献身協力ニ依リ眞ニ

陸軍

奇蹟的成果ヲ收メ當時ガダルカナル島ニ在リ

シ總兵力一萬六百五十五名ヲ北部ゾロモン

ブーゲンビル島ニ轉進セシメ得タリ是ニ

御授威ノ下天佑神助ノ賜ニ外ナラサルヲ確

信シ恐懼感激ニ堪ヘス

爾後軍ハ海軍ト協同シ新銳ナル第六師團生

カラ以テ北部ソロモン群島ノ防衛ヲ確立スルト
共ニ中部ソロモン諸島ノ守備ニ任スル南東支
隊及海軍部隊ニ對シ形而上下ノ支隊援ヲ與ヘ
以テソロモン方面ニ於ケル戰略態勢ノ強化ニ努メ
ツ、アリシカ此間時日ノ經過ト共ニ此方面ニ對
スル敵反攻ノ微益、顯著トナリ六月末ニ至ル
マデカナル敵ハ中部ソロモン諸島ニ來攻シ我陸

18
0029

海軍諸隊ハ寡兵克ク戰機ニ投シ屢々之ニ大ナル打撃
ヲ與ヘタルモ日ヲ經ルニ伴ヒ敵ハ逐次兵力ヲ増強シ
陸海空ノ戦力ヲ擧テ四周ヨリ包圍的ニ攻撃シ、
……且此間有力ナル敵飛行部隊ハ概ネ連日
北部ソロモン諸島ノ軍主力及海軍航空基地ニ襲
撃シ其都度海軍ト協力シ之ニ多大ノ損傷ヲ
與フルト共ニ意防衛ヲ強化シ任務ノ達成ニ邁進

19

シヤリ
ミルニ
晴吉

大任ヲ承ケテ閣外ニ在ルコト一軍有
御後威ノ下
上級統帥ノ適切ナル指導海軍ノ積極的協力
部下將兵ノ勇戦敢闘アリタルニ拘ラス終始所
期ノ目的ヲ達成スルニ至ラス
上宸様ヲ愼シ奉リ下至誠盡忠ナル義多

大、畏ヒ難々恐懼ノ極ニシテ其罪萬死モ
堪ヘズ前カ一二月ニハ畏クモ至仁優渥ナ
ル御恩ヲ拜シ二月ニハ侍從武官ヲ差遣ハ
レ優渥ナル聖旨ヲ賜ヒ聖恩ノ無窮ニ
感激ヲ上奏ス

年月日
陸軍中將

3040

3041

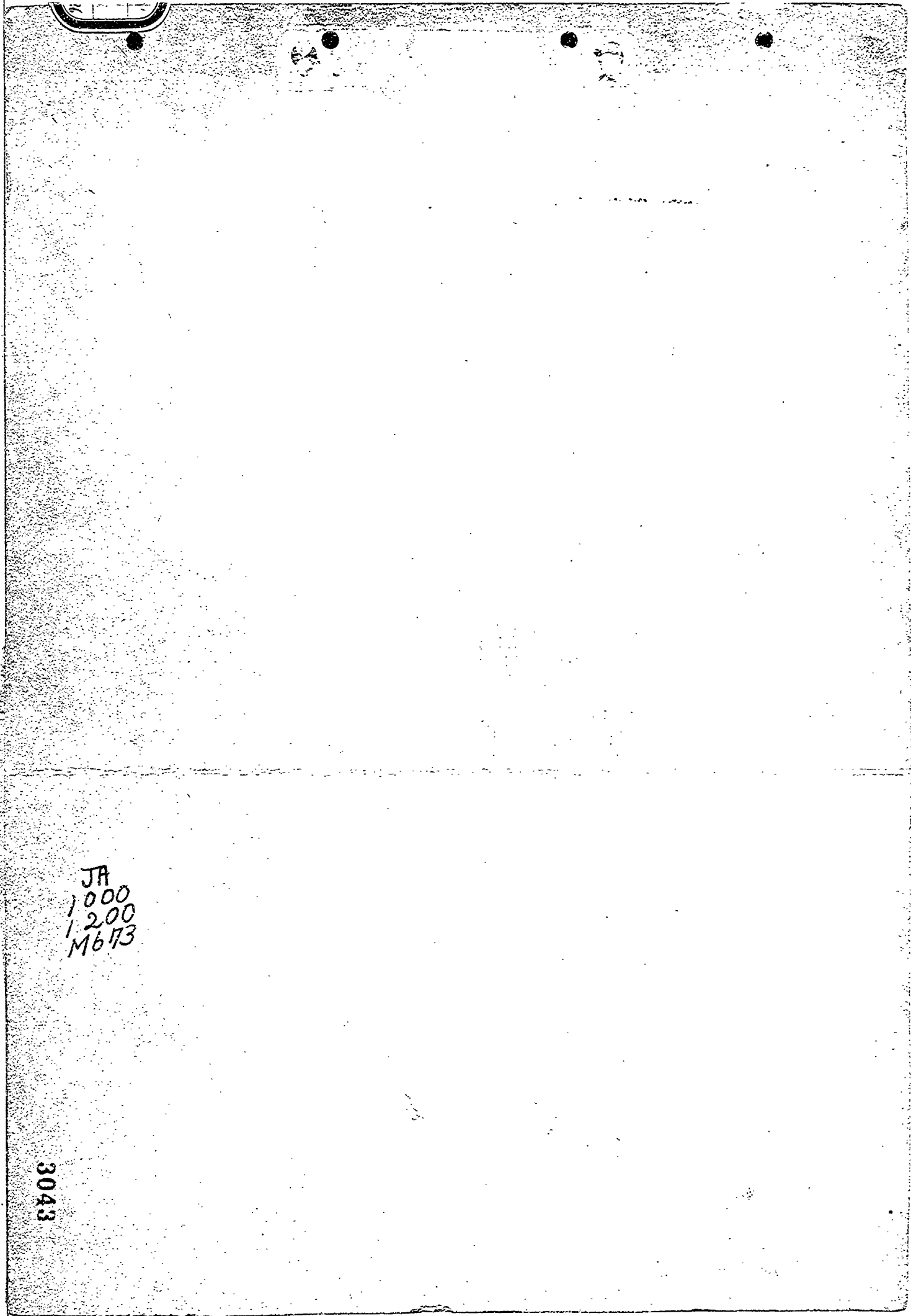
ガ島=於に損耗人員調査表 (昭和十八年二月七日現在調査)
(神集團司令部)

部隊名	ガ島上陸人員	ガ島撤収人員	以上差入人員	備考
軍司令部	192	142	50	一船舶部隊
第一師團	10318	2647	7671	
第二十八師團	7646	2473	5173	
歩兵第三十五旅團	3545	618	2927	右旅団ハ
一本支隊	2108	264	1844	船舶員ヲ
軍艦部隊	4248	7666	2582	シ莫クハ
大站部隊	815	480	335	内叔トス
陸軍部隊 計 (船舶部隊 ヲ除ク)	28872	8290	20582	
船舶部隊	2486(318) 船工三、船舶運送 船舶砲兵ハガ島 ガ島ニ在リ未調査 ナリ又未詳	9819	不詳	
海軍部隊	不詳	848	不詳	
總計	不詳	10665	不詳	

31358
 28872
 2486
 31358
 9819
 21541
 240
 21301

4号作戦「エレベ」上陸人員													昭和17年5月	
区分	陸軍		海軍		海軍		海軍		海軍		海軍		合計	備考
日	科	種	科	種	科	種	科	種	科	種	科	種		
20	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	142	外
21	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	2647	陸
22	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	2593	海
23	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	618	陸
24	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	264	海
25	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	1653	陸
26	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	480	海
27	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	1527	陸
28	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	9724	海
29	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	898	陸
30	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	4940	海
31	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	3902	陸
32	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	1930	海
33	陸	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	海	歩	10572	陸

3042



JA
1000
1200
M673

3043